

わが家の日食観測

広田正純

1度でいいから皆既日食を見たいと思いつつ、子供がわかる年令そして見える場所や晴れる確率ということを考え、今度のメキシコに目標を定めました。始めはレンタカーでアメリカから入る予定でしたが、大手のレンタカー会社はアメリカからのメキシコへの入国を禁止していたので断念。しかしラパスやデルカボへの航空券は一年も前から満席の状態ですとすることができず、こまっていた所、イーストケープでのトローリングの広告を見つけ、さっそく予約。ちょうどラパスとサンホセデルカボの中間点にあるスバプエナビスタホテルという所にホテルをとりました（デルカボ空港よりタクシーで1時間・50ドル）。テレビも電話もなく、ただトローリングの基地としてのホテルでした。毎日どんな魚が釣れたかを指示してあり、私も3日間トローリングに出かけ2匹のマリーンを釣りました。日食の日にはトローリングに出かけた船は一隻だけでしたが、その月の一番大きなマリーン（530ポンド）を釣ってきました。その人の話では、皆既中あちこちらの海面でマリーンがとびはね、壮観だったそうです。魚は太陽光を感じている事がよくわかりました。さてここでの観測は私と子供（10才）を除いてすべてアメリカ人でした。支配人の話ですと、8年前に日本人が泊ったそうです。アメリカ人の多くは、カセグレン鏡をつけたカメラ撮影と、双眼鏡による観望でした。私は600mm望遠カメラと、ビデオ（800mm）そして双眼鏡による観望でした。しかし皆既中はそのすばらしさに子供と双眼鏡を取りあい、撮影の方はうまくいきませんでした。天気は雲一つなく、ベストコンディション。フレアーも肉眼ではっきり見え、その時の興奮状態がビデオに録音され、少々はずかしいしだいす。その夜は他の多くの人と、日食のようすを話し合いました。学校の先生、広告写真家、サラリーマン、大学の教授とさまざまでしたが、感じたことはただ一つ、感動という言葉でした。金環日食は一度、沖縄で見たことがありますが、皆既日食はその感動の度合がはるかに大きなものでした。この気持は見たものでなければ、わからないと思います。今回のメキシコでの撮影の失敗をいい経験として、次回はすばらしい写真をとりたいと思います。

